

イネ紋枯病情報第1号

令和4年8月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**過去10年で最も高い発生ほ場率です！
高温多湿で発生しやすいため、発生状況に注意しましょう！**

1 発生状況

7月下旬に県内52地点155ほ場で実施した巡回調査において、イネ紋枯病の発生ほ場率は34.84%（平年18.91%、前年16.77%）と過去10年で最も高く、発病株率は3.39%（平年2.27%、前年1.94%）と過去10年と比較して3番目に高い状況です。

2 イネ紋枯病について

前年の被害株に形成された菌核が一次伝染源です。紋枯病菌の侵入可能温度は、平均気温22℃以上で、菌核が葉鞘に付着すると感染します。感染後、水際の葉鞘に内側が灰白色、周縁が褐色の縦長の病斑が現れます（図）。イネの生育とともに上方の葉鞘に進展し、葉全体の枯死、稔性の低下を引き起こします。

また、病斑で菌核を形成し、二次伝染源になり、周辺の株に伝染します。



図 紋枯病の病徴

3 今後の発生予測

名古屋地方气象台7月28日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みです。7月は降雨が多かったため、感染が広がっている可能性があります。今後、高温多湿の条件が続くと上位葉に進展するため、注意が必要です。

4 防除対策

上位葉が発病すると減収などの被害に繋がります。上位葉への進展や多発の兆候が見られたら、穂揃期までに表を参考にして、株元に届くように薬剤散布をしてください。

表 イネ紋枯病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	FRACコード
バリダシン液剤5	収穫14日前まで	散布	5回以内	U18
モンカットフロアブル	収穫14日前まで	散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	3回以内	7
バンタック水和剤75	収穫14日前まで	散布	3回以内	7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdf を参照する。薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。